

上田市長 土屋陽一殿

長野大学に関する市民の意見の紹介および
土屋市長と市民の声について対話する機会の要望

日頃から市民のために市政運営にご尽力いただき感謝申し上げます。

私たちの「地域と大学を考える会」では3月20日に西部公民館にて、市民が長野大学にどのような問題を感じまた期待を抱いているかを話し合うために対話集会を開きました。当日は60名ほどの市民が集まり熱心に議論を交わしました。以下にその内容のいくつかをお伝えします。

1. 大学の状況について

トップダウンの運営により学内で自由に発言できない状況を懸念する声が多く寄せられました。

「これまで（私学時代には）民主的な運営がされてきたが今の教育現場はトップダウンになってきている。」「教職員はいつ誰が処分されるかわからない状況が連続して無言の圧力になっていた。」「学生はどう感じているか。」「不正が発生しているようであるが市民に公表されていない。」などです。

また公立化による変化に関する意見も寄せられました。

「公立化される前の長大のイメージはのどかな大学・地域に開かれた大学・ゼミや合宿にも参加させてくれる。」「公立化してなぜこんなことが起きているのか。」「私学から公立大学になってどのように変わったのか知りたい。」などです。

2. 大学の自治と教育研究の自由について

市民からは大学の自治と学問の自由が脅かされていることへの強い懸念が表明されました。

「今日の全国的な問題であり、大学の自治・学問の自由が軽んじられている。自由闊達な表現が自由に行使され真理を自由に追究することのできる場が大学である。地方大学の一部の問題ではない。」「今回の問題は大学の学びの場所、大学の自治が壊されている。学びたいという権利も崩されている。すごく危機感をもつ。」などです。

3. 学生の声を重視する意見

学生を第一に考えているのかという疑問と学生の声を重視すべきという意見が寄せられました。

「学生が第一になっていない。学生が立ち上がる機運が必要。学生の声が大きくなならないといけない。」「学生が（大学の）運営に入りたい。理系（学部の話）が急に出てきた。学

生の意見を聞いてほしい。」などです。

4. 2026年4月に予定されている理工系学部の新設と既存学部の統合について

理工系学部を新設し既存学部を統合する計画の妥当性とその内容について疑問と要望が出されました。

「学生減少のなかで学部新設なんていいのか。」「理工系学部ができるようだがその内容も何も知る機会がないのもっと透明化してもらいたい。」「新理工系学部について市民にも学内にも具体的に説明する場を作るべき。」「理工系学部ができようとする構造がおかしい。環境ツーリズム学部等は特色ある学部なのになぜ統合するのか。」「地域と協働でここにしかないもの、ここでしかできないものを作ってほしい。」などです。

5. 長野大学に関する要望と期待

地域の大学として市民が長野大学に強い関心をもっていることが感じられる意見が寄せられました。

「地域の良い大学にしてほしい。」「地域に密着して地域に目を向けるような大学になってほしい。」「孫が受験するなら勧められるような大学であってほしい。」「自由な場であってほしい。」「自分たちで考えて自分たちで作れる民主的な大学になったらいいですね。」などです。

また他方では「ハンディをもった学生が入りにくくなった。それは公平なのか。」という意見もありました。

6. 市議会と市議会議員について

公立化後に長野大学で起きている問題についてメディア報道だけでなく地域の中で市民運動も起きているにもかかわらず、市議会議員と議会からこれらの問題について何ら情報発信がないことに強い疑問が示されました。

「議員がこの問題を議会で取り上げない理由が全く理解不能。」「なぜ議会が動かないのか。」「組織的でなくても、個々の議員としては何らかの動きがあっても良いのではないか。」などです。

市民はこのように地域の大学である長野大学について強い関心をもち真剣に考えています。「地域と大学を考える会」では長野大学に関する市民の声について、是非土屋市長と話し合える機会を持ちたいと望んでいます。市長のご都合が付く日時と時間帯をいくつか知らせていただければ望外の喜びです。ご対応をよろしく願います。

2024年5月30日

地域と大学を考える会 共同代表 京谷栄二・長島伸一・村山隆